令和4年度 家族ふれあいフォトコンテスト

令和4年度の親子ふれあい事業は、昨年度に引き続き「家族ふれあいフォトコンテスト2022」を開催いたしました。

応募総数170作品とたくさんの素敵な写真をご応募いただきました。

審査委員長に谷口 亮 氏をお迎えし、厳正な審査のもと30点の入賞作品が選ばれました。

ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。

So Cute!

特別賞

「やっと会えたね」
三姉妹ママ　東若久小学校

エピソード
次女が三女を見る表情が、とっても優しく温かい目だったのでカメラをむけました。

谷口氏より
優しいまなざしですね。
おなかにあてた手も優しい。
いいお姉さんになってくれそうです。

最優秀賞

「いたいいたいのとんでけーする‥？」
ちーまま　香椎浜小学校

エピソード
転んだ弟を心配する優しいお姉ちゃん。ありがとう、ママはとても温かい気持ちになりました。

谷口氏より
桜、泣いてる弟、まだ少し頼りなさそうなお姉ちゃん…
いろんな想像をかき立てられるので見ていてあきません。
ほのぼのほっこりとした気持ちにさせられました！

Great!

〔谷口 亮氏〕
1974年生まれ。福岡市出身・在住のイラストレーター・キャラクターデザイナー。
東京2020オリンピック・パラリンピック公式マスコットキャラクターをデザイン。数多くのキャラクターデザインを手がける。

Happy!

「おさんぽ」　ふうちゃん　当仁小学校

優秀賞

選考中

エピソード
夕方糸島さんぽ（撮影は父）

谷口氏より
すごく高くて綺麗な空が、おさんぽしてるのかな？
楽しそうな皆さんの気持ちとリンクしているようですがすがしく感じました！

特別賞

「パパ、もう1回！」
高速大名行列　飯倉中央小学校

Wow!

エピソード
何度もせがまれ高く投げ続けたので筋肉痛でしたが、今しかできないと思って頑張りました。

谷口氏より
すごい高さですね!!僕も子どもにやったことあるのでお父さんの力強さがわかります！

「ジャンプが大好き」
Mickey　香椎第1中学校

特別賞

Jump!　Jump!

エピソード
海に遊びに行くとき、いつもパパとジャンプして写真を撮るのが好きで、親子で笑い合いながらいろんな面白いポーズを取って、力いっぱい空へ飛び上がって、より高くできるように何度も何度も楽しそうにやってみました。

谷口氏より
福間海岸でしょうか？
まったく波をたてずにすばらしい鏡面！
ナイスジャンプ！

Love you

優秀賞

「大好きなひいばばと」
くまねこ　周船寺小学校

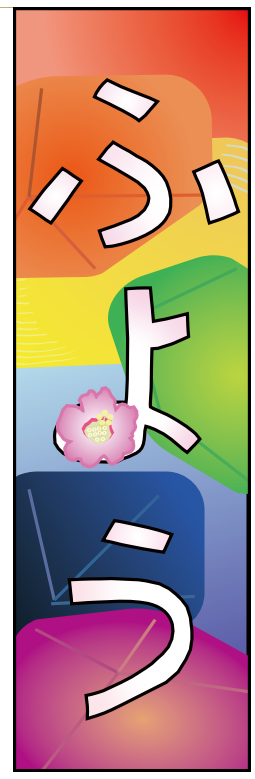
エピソード
久しぶりの帰省でなかなか会えなかったひいばあちゃんと久しぶりの再会。その中の一コマ。孫から教わるはじめてのアイロンビーズ。90歳になるおばあちゃんまだまだ長生きしてほしい。

谷口氏より
お孫さんに頼まれてアイロンビーズに挑戦！
楽しそうなお孫さんの横で「細かすぎて良く見えんったい！」って声が聞こえてきそうです（笑）

《応募総数》170作品

《入　　賞》最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞3点、佳作24点

たくさんのご応募ありがとうございました。



発行所
福岡市早良区百道3丁目10-1
福岡市教育センター2階
福岡市PTA協議会

発行人
会長 岡村耕二
広報委員会

福岡市PTA協議会
ホームページ
http://www.fukuokacity-pta.jp
福岡市PTA　検索

印刷 ㈱西日本新聞プロダクツ

令和5年度 教育予算に関する要望

福岡市ＰＴＡ協議会では、毎年福岡市教育委員会に対して、翌年度の教育予算に関する要望書を作成し提出しています。

今年度は、福岡市の小・中・特別支援学校の全保護者、全教職員、全ＰＴＡ役員を対象にアンケートを実施し、保護者16,099件、教職員1,233件、ＰＴＡ役員519件の回答がありました。その結果を参考にして令和５年度の教育予算に関する要望書を作成しました。

近年は、新型コロナウィルス感染症の影響が学校現場にも出て、子どもたちが安全で安心して学べる環境づくりが喫緊の課題となっています。また、教職員が子どもと向き合える時間を確保するためにも教職員の働き方改革に関する課題、部活動を取り巻く状況、さらには特別支援教育の充実など教育環境のソフト、ハード両面の要望を行いました。

今年度要望した内容の一部です。

石橋教育長（左）に要望書を手渡す岡村会長（右）

01

教職員不足による学校教育現場における現状と教職員の増員・配置の定数拡充を

令和3年度から35人以下学級が施行され教職員不足を改めて感じる1年となった。これまでも教職員増員は繰り返し要望を出している。また、特別支援学校・支援学級においても資格をもった教職員の確保を要望した。

02

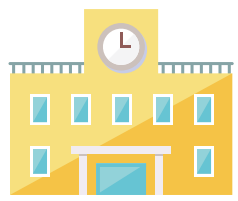
中学校の部活動の現状と趣旨・あり方について

中学校の部活動においては、教職員の80％が「負担を感じている、または専門家に任せたい」と回答しています。保護者からは中学校で初めて行う部活動に対して未経験者の生徒が気軽に入部できる環境づくりや授業だけでは得ることのできない経験など、部活動で培われるものの大切さを子どもたちに学んでほしい。

03

学校予算の見直しを

コロナ禍において本来学校が購入すべきものをＰＴＡで購入している実態もあり、迅速に対応するための予算など校長先生の裁量で使用できる学校予算を作っていただきたい。



04

児童・生徒が安心して学べる環境づくりを

一般家庭をはじめ公共の施設でも、ほぼ洋式トイレになっている。和式トイレに慣れておらず、学校でトイレを使用できずに帰宅まで我慢して体調を崩す子どももいる。できるだけ早期の洋式・乾式トイレへの移行を要望。

デジタル教科書の活用、通学時の荷物の軽減や発育に合わせたバックの使用など柔軟な見直しを検討してほしい。

令和4年7月12日　令和5年度教育予算に関する要望書提出

特別支援学校PTA連合会 レクリエーション大会（6/25実施）

福岡市内８校（福岡中央・若久・屋形原・南福岡・東福岡・生の松原・今津・博多高等学園）の特別支援学校の児童生徒・先生方・保護者がそれぞれの学校に集まり、福岡県レクリエーション協会のご協力のもと、レクリエーション大会を実施しました。

今年度は初めての試みとして、８校の体育館をオンラインで繋ぎ、開会式や準備体操、そして全体競技として玉入れを行いました。

オンラインでの開会式（若久特別支援学校）

玉入れ競技では、想像していた以上に大変盛り上がり、白熱したバトルとなりました。

その後は、福岡県レクリエーション協会の様々なレク団体に準備していただいたレクリエーションを各校で楽しみました。（福岡中央：ダブルダッチ、若久・博多高等学園：ソフトダーツ、屋形原：インディアカ、南福岡：車椅子レクダンス、東福岡：バルーンアート、生の松原：セラピューティックケア・絵本読み聞かせ、今津：パネルシアター・ゲーム４種）

東福岡特別支援学校でのバルーンアート

博多高等学園でのソフトダーツ

今津特別支援学校でのパネルシアター

生の松原特別支援学校での絵本読み聞かせ

福岡中央特別支援学校

屋形原特別支援学校

南福岡特別支援学校

レクリエーション大会終了後は各校にてレク団体の方々と記念撮影をし、温かい雰囲気の中、無事に終えることができました。

当日の朝はゲリラ豪雨があり、どうなることかと心配されましたが、雨のおかげで暑さも少し和らぎ、オンラインではありましたが、3年ぶりに8校が集まるレクリエーション大会は大変盛り上がりました。
子どもたちが弾けるような笑顔で、全力で遊ぶ姿に先生方や保護者も笑顔になった一日でした。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

報告1　第2回 学ビバ!! FUKUOKA 2022 福岡県大会

聞いてみよう“今日のスマホ、どうだった？”

10月22日（土）福岡市東区なみきスクエア・なみきホールにて、三P協連絡協議会（（一社）北九州市PTA協議会・福岡市PTA協議会・福岡県PTA連合会）の主催で開催されました。「ネット社会における上手な子育て」をテーマに専門家の講演と、ＲＫＢ坂田周大アナウンサーのＭＣで保護者代表・教員代表・県行政青少年育成課担当者のトークセッションで、ＳＮＳに関わるトラブルとその対処について学ぶ機会となりました。

子どもがスマホを"どのように"使用しているか、もっと話しをしましょう。ほとんどのご家庭で、スマホの契約者は保護者でしょう。子どもは借りているだけに過ぎませんが、子どもは自分がもらったスマホと思っているはずです。我が子とモメるかもしれませんが、嫌がられても立ち向かっていきましょう。

世界中につながることができる電波で、犯罪者は24時間いつでも家の中に入ってくることができる時代です。友達同士の画面上の会話では真意が伝わらないこともあります。ＳＮＳ上に気軽にアップした画像などはデジタルタトゥーとなり永遠に消えません。

インターネットの世界では一人で判断を迫られることが多くあります。自分の身は自分で守らなければなりません。未来を助ける道具であり、未来を邪魔する道具でもあるスマホでのＳＮＳ利用について、時間制限や課金についてのルールだけでなく、家族で話して一緒に知識を深めていきましょう。

保護者のみなさん、季節の花や風景を毎日見ていますか？スマホの画面ばかり見ていませんか？「子は親の背中を見て育つ」といわれています。しっかり学んで、立派な背中を見せたいものです。ちなみにスティーブ・ジョブズは18歳になるまで、我が子にスマホなどは持たせなかったそうですよ。子どもに「今日の学校どうだった？」と聞くのと同じように「今日のスマホどうだった？」と、いつも聞いてみてください。

報告2　担当副会長合同研修会

9月21日（水）に市内小・中・特別支援学校の担当副会長が集まり、合同研修会が行われました。

●〈甘え〉の大切さ

まず、西九州大学非常勤講師　吉村春生氏による「心がかぜをひくとき」―“安心感”と自立―と題して講演がありました。

子どもの育ちにおいて一番大切なものは、大人に「甘える」ことであり、それが子どもの安心感につながるということ、また子どもたちを見守る私たち大人にも安心感が必要でその支えとなる場所づくりが大切であるということについてユーモアを交えてお話しされ、もっと聞きたい、子育ての悩みを相談してみたいと思わせる素晴らしい講演でした。

●PTAのデジタル化

次にグループディスカッションでは、「デジタル化について」というテーマで意見交換がされました。他校で実践されている良い点や自校の課題点などに気づくことができ、とても有意義な交流会となりました。

報告3　ＩＴ特別委員会

2021年度に発足したIT特別委員会は、「はじめの一歩を軽くする」のビジョンのもと、アンケートを通じて各単Pの現状や課題を確認し、「PTAチャンネル」でPTA活動にITを導入するためのオリジナルマニュアルを紹介したり、本紙で各単Pの事例を紹介したりするなど、情報発信に取り組んでまいりました。

各単P・区P連で、こうした情報を参考にIT導入が広がってきており、「はじめの一歩を軽くする」というビジョン達成について手ごたえを感じております。一方、運用面やセキュリティ面、ITツールとの向き合い方など、IT活用を進めるうえでの不安の声も寄せられてきています。

そこで、2022年度は各単P・区P連が安心してITを活用していく上でお役に立つ情報を、2021年度に引き続き「PTAチャンネル」や本紙で発信してまいります。これからIT導入に取り組む単Pの皆さまはもちろん、既にITを導入している単Pの皆さまも、PTA活動におけるより良いIT活用の参考にしていただければ幸いです。

報告4　令和4年度 福岡市PTA協議会 会長・担当副会長合同研修会

6月18日（土）に市内の小・中・特別支援学校の会長・担当副会長が集まり、西鉄イン福岡とハイブリッドで開催されました。

第1部　事例発表『三宅小学校PTAの活動報告について』

講師　三宅小学校PTA会長　白水 陽介 氏

ご自身がPTA役員を務められた5年間、PTAのイメージを変えるためにはどうすればよいか、というお話を実例と共にしていただきました。共働き世帯が多い中持続可能なPTA活動はどのようにするべきか？嫌々委員会活動に参加してもらうのではなく、「こんなPTA活動なら参加してもよい」と思ってもらうにはどうするべきか？そんなどこの学校でも存在する課題を解決するため、不要な会議の削減や委員会活動の縮小、効率化に加えてイメージ戦略についてなど、白水会長の明るく楽しい人柄で語っていただき、参加者には学びや気づきがたくさんあり大変参考になりました。

第2部　講演『子どものためのPTA活動とは～笑顔のコミュニケーション術～』

講師　株式会社HANALAB代表取締役　若山 克彦 氏

「子どもにとって安心できる環境を整えるには、良好なコミュニケーションが取れている人間関係を構築すること。夫婦、保護者同士、保護者と学校、教員同士など…笑顔で人間は多様であることを認め受け入れる。そうすることでできた良質な人間関係は子どもたちの健やかな成長に必要なものである。」という事を楽しいお話とチームディスカッションをしながら学ぶことができました。お互いがお互いを知り、受け入れることができることでPTAはより良い組織になると感じました。そして若山氏の爽やかで優しい雰囲気で始終会場はあたたかい空気に包まれていました。

コラム

時を超える言葉

福岡市立三筑小学校
校長　的野　克之

私は今までに職業柄、保護者の方や先輩・同僚教員からたくさんの宝の言葉をいただきました。

「先生、私は常々、我が子にこんなことを言っています。『努力は人を裏切らない。』と。もし、自分の思うような結果にならなかったときは、『まだまだ、努力がたりないんだな、と思いなさい。』と。」

これは私が教師になって2年目の家庭訪問の時に、クラスのお母さんが私に伝えた言葉です。

「私は、わが子が家に帰ってきたときに、ちゃんと『靴をそろえて家にあがりなさい。』と言ってしつけていますよ。先生、何でかわかりますか。」

「それは、いつも靴を並べる習慣がついていると、並べていない時に、『わが子に何かあっているな。』とすぐに気付くことができるからですよ。そうして、わが子に『どうかしたと。何かあったと。』と、きくことができるんです。」

これは、当時のＰＴＡ役員をしているお母さんから熱く語ってもらった言葉です。

「いいか、的野。本当の型破りというのは、型を身につけた人間にしかできん。」

これは、当時の校長先生がいわゆる「守・破・離」の考え方をもとに「型や方法を身につけること」の重要性を伝えた言葉です。

今後、「ウィズコロナ」や「アフターコロナ」といわれる時代に入ると共に「Society5.0」を迎える社会が到来します。変化が速く不確実、あいまいで将来の予測が難しい社会で、子どもたちは生きていくことになります。そんな中において、時には紹介した「三つの言葉」のように昭和・平成時代の言葉に立ちもどる必要もあるのではないかと思っています。皆さまにも、心に刻まれた言葉があるはずです。今一度、ふり返ってみてはどうでしょうか。

令和４年度 福岡市ＰＴＡ協議会 会長合同研修会

10月14日（金）に市内の小・中・特別支援学校の会長会が西鉄グランドホテルで開催されました。

福岡女子大学の木村教授により、法と人権の立場から「人生100年時代におけるPTAの役割と可能性」についてお話をしていただきました。

講演の中で、特に印象的だったのは、「PTAはボランティア団体ではない」「子どものための組織ではない」という2つのメッセージでした。“PTAとは”という問いに私たちは無意識に”ボランティア””子どものため”という”当たり前”がまず思い浮かぶのではないでしょうか。この”当たり前”をひとまず置いておいて、PTAという組織の本来の目的を考え、さらに私たちの周りに山積する諸問題を解決し、人生100年時代という今後を見据えること、それこそが「人生100年時代におけるPTAの役割と可能性」であるとお話から伝わりました。

PTAは学びの場である。その学びの対象である会員は保護者と教員だけなのか。地域の方々や子どもたちも会員ととらえることはできないだろうか。そして保護者（P）・教員（T）・地域（C）・子ども（C）の組織となり皆で学んでいく組織になれないだろうか…。そして会員が”学びたい”と感じて活動に自主的に参加し、学んだことを活用して第二の人生に活かしていくことはできないだろうか。これこそが「役割と可能性」ではないか。このようなご提案はこれからのPTA運営をする上で、諸問題を解決する明確な方向性として示されたように感じました。

第70回日本PTA全国研究大会

スローガン「人とひとのつながりを体感しよう！」～あがらっしゃい精神の山形から～

令和４年８月26日（分科会）・27日（全体会）

３年ぶりに現地開催となった今年の山形大会は、新型コロナウイルス感染対策をなして行われました。WITH（ウィズ）コロナ社会の新しい生活様式によって今まで当たり前と感じてきた人と人とのつながりが希薄になりつつある中での全国大会の開催ということで、「つながり」をキーワードに挙げていました。

私が参加した第8分科会では、悩みを持った子どもたちや保護者が相談しやすい環境や支援・関わり方について討議がなされました。その中で、子どもたちの安心できる居場所作りが重要であることを学びました。

全体会では、指揮者の飯森範親氏の記念講演と山形交響楽団による記念講演会も行われました。

第77回指定都市ＰＴＡ情報交換会さいたま市大会 ～これからの時代のＰＴＡを考えよう！～

《第４分科会～広報・情報活動～ＰＴＡ活動とＩＣＴ》

「子どもたちを思う気持ちや地域と学校、保護者との関わり方、特に情報社会において様々な取り組みがある中ICT（情報通信技術）をいかにうまく取り入れることができるのか」に注視し参加しました。4つのグループに分かれディスカッションをし、他県の現状やPTAの取り組みなど様々な情報を得ることができました。

「情報社会においていかに情報を受けとめる人の質とそれを使う人の質を上げていくか」が大事だと感じました。ただ情報発信しても受け取る側が無関心だったり優先順位が低いと台無しになる為、どう高くするかを考える必要があります。

もう一つ、ICTを進めていく中で全てペーパレスにするのはどうなのか？各地域の状況や環境によって変えていく必要もあると感じました。便利な道具として必要ではありますが、オンラインの価値とオフラインの価値をうまく使い分けて学校と地域、保護者とコミュニケーションを取っていかなくてはいけないと思いました。これらで得られた情報をうまくまとめて各学校のPTAにむけて共有したいと思いました。

募集します PTAあるある川柳

皆様のＰＴＡに関する川柳を左記２次元バーコードからご応募ください。

お寄せいただいた作品の中から厳選した作品をふようにて発表させて頂きます。

作品例

会長の顔も名前もうろ覚え

プラマイプラス？ランニング後の大ジョッキ

給食のありがたみ知る夏休み

カビたパンブラックボックスランドセル

マジ焦る「今日空き箱いるんやった」

139号モニターアンケート 活かそう！読者の声

- 題字や紙面がカラフルになって良い。
- 写真の分量が多く、（読み手の）負担を感じさせません。
- ＰＴＡ広報誌コンクールは各校の工夫が伝わり参考になりました。もう少し内容も読めるよう拡大していただけるといいな。
- 伝わりやすい連絡手段、ペーパーレスへの取り組みは課題だと思う。ＱＲコードの活用など伝える工夫が良いと思った。
- いじめの標語については子どもの思いが痛いほど出ているものもあり心が苦しくなりました。親も一緒に考えさせられました。

広報委員紹介

《委員長》
中央区　福浜小　坂本　孔明

《副委員長》
西区　元岡中　松田　弘子

《第140号担当》
南区　日佐小　平野　英恵
博多区　板付小　権藤　亜美
東区　美和台小　福永　吉宏
早良区　田隈中　安永亜希子
東区　城香中　八木　徹

《第141号担当》
西区　北崎小　宗　扶美
早良区　入部小　箱島　大樹

《第142号担当》
中央区　舞鶴中　北野　友子
城南区　長尾中　小野　敏生
南区　長丘中　金子　雅史
博多区　三筑中　藤田　園子
特支学　屋形原特支　田津　昌昭

《校長》
小学校　塩原小　森　春樹
中学校　吉塚中　瀧田　文隆

《市Ｐ協担当役員》
博多区　春住小　元永　顕雄
東区　多々良中央中　奥田　博子
早良区　田隈中　波多江真一

編集後記

なかなか手にとって見ていただける機会が少ないと思いますが、皆さんが手にとって楽しく見ていただけるように広報委員全員で試行錯誤しながら作ってきました。

特に現代社会はＩＴ社会のど真ん中にいます。ＩＴを身近に感じてもらうためにも、ＩＴ特別委員会の特集を今後も連続して載せて行きたいと思います。

より質の高い情報をより分かりやすく皆様にお届けできるように作っていきたいです。次回もお楽しみに。

（広報委員長　坂本孔明）